

地域福祉活動計画に関する地区別計画 進捗状況一覧

地区	期日	時間	会場	地区の目指す姿
山の下	令和5年1月27日	14:00	山の下まちづくりセンター	年をとっても、障がいがあっても安心して暮らせるまちに！
桃山	令和5年1月12日	10:00	山の下まちづくりセンター	地域全体で協働し、地域交流の活発なまちに！
東山の下	令和4年12月12日	13:00	こもればい交差点	地域の力を総動員して、全域で見守り・生活支援活動ができる東山の下にしよう！
下山	令和5年1月27日	10:00	下山コミュニティハウス	地域住民が健康で住みやすく、あいざつが活発なまちに！
紫竹中央	令和4年9月13日	18:00	紫竹集会所	住んでいる人みんなが「幸せだなあ」と感じられるまちに！
木戸	令和5年1月21日	9:00	木戸コミュニティセンター	安心して暮らし続けることができる便利で楽しいまちに！
牡丹山	令和4年11月16日	16:00	東区プラザ	みんながいいきと生活しているまち
大形	令和5年1月10日	14:30	大形まちづくりセンター	誰もが安心して住むことができ、多世代交流の活発なまちに！
江南	令和4年11月17日	19:00	石山南まちづくりセンター	安全で住みやすく、安心な暮らしのできるまちづくりを！
中野山	令和4年1月18日	15:00	シルバーピア石山	安心して暮らしてつづきたい美しいまち
南中野山	令和4年12月10日	9:30	石山南まちづくりセンター	ちょっとした困りごとは地域住民同士で解決できるまちに！
東中野山	令和5年1月20日	13:30	東石山コミュニティハウス	誰もが安心して住み続けられるまちを目指して！

地区名 山の下

地区の目標・目指す姿

年をとっても、障がいがあっても安心して暮らせるまちに！

開催日 令和5年1月27日

地区別計画の進捗や意見・修正等

地区の良いところ

・学校とのつながり

通学路の見守りや小学校・消防との合同訓練等を継続しているが、コロナ禍でつながりが薄くなってしまったところがある。

・地域の茶の間

茶の間が増えてきており、年をとっても歩いて行ける居場所がある。

・介護予防体操

毎月開催を継続している。(体操10カ月、フレイル予防2カ月)

(新)まちの変化

古い家が取り壊されて新しい家が建ち、新しい住民が入ってきたと感じる。

地区の課題

・情報共有

市役所のごみ出し支援事業を知らない自治会・町内会長もいたが、支援制度などの情報共有が図られるようになってきた。

・生活の課題～顔の見える関係づくり

自治会・町内会長や友愛訪問員がキャッチした困りごとを、どの支援機関につなげば良いかわからないときがある。
声を上げやすい環境づくりをするとともに、受けとめた声を次につなげるスキルアップができるとうい。

・担い手の育成

活動者の高齢化が進んでいる。

実行計画

①地域の問題解決のための会議を開催しよう

コロナのため中止していた民生委員・児童委員と自治会・町内会長との連携会議を3年ぶりに開催した。
自家用車による移動支援を一時期試みたがニーズが少なかった。「人に頼るのが苦手」な方が多いからか。
広報紙を手にとってもらいやすいよう、写真を活用した読みやすい誌面づくりを継続している。

②顔の見える関係づくりをしよう

まちづくりセンターのフリースペース活用はコロナのため出来なかったのを再開を検討したい。
区役所や桃山地区と協働したイベント(山の下夜遊びランド、ハロウィンパーティー)が好評だった。こういった新しい動きから若い世代の参加の機会を増やしたい。

③災害時、要支援者への対応や協力体制の整備をしよう

避難行動要支援者の名簿に載っている方に声をかけても、避難訓練の参加率が悪かった。せめて玄関先までは出てくるよう声掛けの工夫をしている。

地区名 桃山

地区の目標・目指す姿

地域全体で協働し、地域交流の活発なまちに！

開催日 令和5年1月12日

地区別計画の進捗や意見・修正等

地区の良いところ

・除雪やごみ出し支援

今冬の大雪で15件の除雪相談。ボランティア3名で対応したが、区建設課で貸し出している除雪機を、助け合い団体も利用できると取り組みやすくなるのでは。

・地域の茶の間

1ヶ所減。運営が高齢になり後継者が不足している。

・あゆみ会の活動

ふれあい給食はコロナ禍のため既存対象者への配食形式に変えて実施している。学校との関わりは継続できている。

・支え合いのしくみづくり

桃山校区助け合い・支え合いの会の定着と担い手確保に向けて取り組みを継続している。

地区の課題

・担い手育成

コロナ禍でのリモートワーク等により働き方・時間の使い方に変化が出てきている。若い層を地域に呼び込むことができれば良いと思う。

・災害時の対応

校区内3か所の避難所に合わせ、地区のブロック割を組みなおした。

実行計画

①問題をみんなで共有し、地域で顔が見える関係づくりをしよう

コロナが落ち着いたら、困りごとの掘り起しとしてアンケート調査を実施したい。以前と困りごとに変化があるのではないか。自治会・町内会長と民生委員・児童委員とのつながりは、地区により多少異なるが良くなってきた。

②次世代の担い手を育てよう

コミ協広報紙や自治会長の声かけで、あゆみ会に若い世代のボランティアが6名増えた。ひきこもりの方が地域の支え合いに参画し、社会に関われる取り組みをしたい。何度も根気よく声をかけ続けていくことが必要。誘ってもらうまで活動団体の存在を知らなかったとの声があり、知ってもらうことの重要性を感じた。

③地域で見守り・助け合いができる環境づくりをしよう

コロナ禍で地域の交流機会が少なくなってしまった。今後どう創出していくか検討したい。避難行動要支援者名簿は、個人情報保護の関係で活用が難しい。個別に同意を取れば活用の道が拓けるのでは。

④町内の人たちが気軽に集う場所をつくろう

理想は1自治会1集会所だが実際は難しく、空き家利用は立ち上げ支援の補助金はあっても維持費等継続運営のハードルが高い。校区内に図書館があるといい。

地区名 東山の下

地区の目標・目指す姿

地域の力を総動員して、全域で見守り・生活支援活動ができる東山の下にしよう！

開催日 令和4年12月12日

地区別計画の進捗や意見・修正等

地区の良いところ

・じゅんさいの会

メンバーの高齢化により新規受付はしていないが、ごみ捨て支援は日常を支える支援であり必要性が高いため継続している。

・見守り体制

子どもの見守り隊が組織化されている。高齢者の見守りは、支会が友愛訪問事業を実施しており、手厚い体制(ボランティア72名)で取り組んでいる。

・交流事業

コロナ禍により中止になった事業もあるが、「東山の下フェスティバル」を再開する予定。

地区の課題

・人材の確保

担い手・後継者不足は継続課題であるが、新規のボランティアが3名加わった。町内での声掛けが有効か。今後はボランティアにやりがいを感じられるようになってほしい。

実行計画

①コミ協と自治会・町内会単位で仕組みをつくろう

・ブロック会議

コミ協の組織体制に校区を4つに分けたブロック制を導入。各自治会・町内会で福祉部の立ち上げが進んでおり、ゆくゆくはその単位で助け合いがあるとよい。

・移動支援

オンデマンド交通の社会実験を実施し、タクシーデマンド事業をしている。事業費の捻出が課題。会員負担や企業等からの協賛、サポーター制など検討している。

・こもれび交差点

コミ協・ボランティア主体の運営をしている。交流の場としても、コミ協運営など地域の話をする場としても貴重な拠点となっている。

②子どもから大人まで顔の見える関係づくりをしよう

・子どもの見守り

交通安全推進協議会が中心的役割をしている。民児協も協力に加わり、コミ協がとりまとめをしている。

・各種イベントの開催

コロナ対策を踏まえて実施していきたい。東山の下フェスティバルは分散開催など工夫をしていく。三世代交流大運動会は、学校側に経験者がいなくなっているため、今後の開催に難しさがある。

・学校との連携

小学校の防災教育に、コミ協役員が学校に行って授業をしている。地域の防災士は7名。

令和4年度地域福祉座談会まとめ

地区名 下山

地区の目標・目指す姿

地域住民が健康で住みやすく、あいさつが活発なまちに！

開催日 令和5年1月27日

地区別計画の進捗や意見・修正等

地区の良いところ

・各種交流事業

ふれあい祭りや下山コミュニティハウスの事業などコロナ禍のため中止しているものが多いが、お茶会などは継続できている。

コロナでもやめない気持ちを大事にしている。

・子育てサロン

共働き家庭が増え、参加者層が未就学・園児の親子⇒未就園児の親子に変化してきた。それを受けて活動内容の見直しを図っている。

地区の課題

・情報共有

防災訓練などで平時から避難行動要支援者名簿を用いて、要支援者の把握をしていっている。

・地域の茶の間

週1茶の間の助成金は飲食物が対象外のため使いづらさがある。

茶の間に歩いていくのがつらくなってきた高齢者のため、送迎バスがあると良い。

実行計画

①自治会・町内会と民生委員・児童委員との連携を深めよう

・自治会・民生委員児童委員協議会

年1回開催していた自治会・民生委員児童委員協議会はコロナで中止となってしまったが、情報共有の必要性は感じており再開に向けて準備をしていく。

・支え合いのしくみづくり会議

令和4年9月から支え合いの会が立ち上がった。支援内容は庭掃除・草取りが多い。1カ月で20件ほど依頼があった。今冬は除雪も少しあった。

今後は対応できるメニューを増やしたい。

②顔の見える関係づくりを目指そう

登校見守り時にあいさつの声掛けをしている。

ふれあい給食は会食から訪問による配食にしている。コロナ禍でも形を変えて関係づくりを続けていきたい。

③地域の茶の間の開催、活用の見直しをしよう

茶の間参加者に手芸が趣味の人が来るようになり、他の参加者にも伝播した。活動の幅が広がりマンネリ化を防ぐ効果があった。

(新)フレイル予防

コミ協としてフレイル予防や介護予防の取り組みを継続実施している。

令和4年度地域福祉座談会まとめ

地区名 紫竹中央

地区の目標・目指す姿

住んでいる人みんなが「幸せだなあ」と感じられるまちに！

開催日 令和4年9月13日

地区別計画の進捗や意見・修正等

地区の良いところ

・交流事業

世代交流事業「もちつき大会」はコロナのため中止が続いているが、今年は再開したい。(12月に予定していたが、コロナ感染者増のためやむなく中止)

実家の茶の間が世代間交流の場になっている。

・安心安全の取り組み

通学路の見守りや「火の用心」活動を継続している。避難訓練を実施し、防災の取り組みも進めている。

地区の課題

(新)交通の便

栗の木バイパスの工事で交通の便が悪くなっている。

(新)空き家問題

庭木の枝が伸びているなど、近隣住民が困ることが出てきた。個人情報の壁があり、持ち主が分からなかったり、分かっても打ち手がないケースもある。

実行計画

①地域ぐるみで子どもの安全を見守っていこう

セーフティスタッフによる通学路の見守りは継続している。

沼垂小学校と江南小学校で、地域との関わりや取り組みに温度差があると感じる。沼垂小学校は区境界を跨るためか連絡が少ない。

②災害時の助け合いの基盤をつくろう

災害時に備えた情報共有は、2区は世帯票を作成済み。他地区はまだ進んでいない。

避難訓練は実施できている。

③顔の見える関係づくりを進めていこう

あいさつに積極的ではなかった大人が、少しするようになった。

石山中学校・江南小学校・中野山小学校等と協働の「あいさつ運動」が展開されており、地域全体であいさつ推進の動きがある。

「あいさつ運動」を周知するため、タスキなどを作製できると良いのではないかな。

令和4年度地域福祉座談会まとめ

地区名 木戸

地区の目標・目指す姿

安心して暮らし続けることができる便利で楽しいまちに！

開催日 令和5年1月21日

地区別計画の進捗や意見・修正等

地区の良いところ

・木戸コミュニティセンター

概ねすべての活動が再開した。飲食禁止が緩和されると更に利用が伸びるのではないかな。

・居場所

地域の茶の間が7⇒8か所に増えた。

子ども食堂は2か所になった。木戸のお茶の間 子ども食堂はコロナで中止もあったが活動を継続している。ツクイ竹尾の子ども食堂とは関わりが薄い。

・支え合いのガイドブック

改訂版を発行した。活用方法の周知が進んでいないところがあるため、コミ協総会などで伝えていきたい。

地区の課題

・担い手の減少

自治会・町内会長のなり手が不足し、後釜が見つからないところがある。

・拠点の利便性

多様な人が利用できるよう、木戸コミュニティセンターにエレベーターを設置してほしいと要請した。

実行計画

①健康寿命の延伸～体が資本、体力を落とさない！

だんだんダンスは2会場で実施している。ボーリング、高齢者料理教室は継続している。
プールウォーキングは水着に抵抗があったのか参加者が伸びず中止となった。

②地域を支える担い手を育てよう～楽しくなければ集まらない！

若い人材を発掘するしかけづくりを進めていきたい。
一部の地区では、通学中の中学生がごみ出しに協力してくれている。

③地域のつながりづくりを進める！

自治会・町内会長と民生委員との情報交換会は令和5年度開催予定。
民生委員が誰かを把握していない会長がおり、顔のつながった関係づくりが必要。

地区名 牡丹山

地区の目標・目指す姿

みんながいきいきと生活しているまち

開催日 令和4年11月16日

地区別計画の進捗や意見・修正等

地区の良いところ

・住民同士の交流事業

3世代交流事業「木戸芸能祭」など無くなってしまったイベントもあるが、「こいこいフェスタ」等のイベントは多くの人で賑わいがある。

・地域の居場所

地域の茶の間、子育て交流施設(わいわいひろば、い〜てらす、子ども創作活動館)、子ども食堂等、居場所が充実してきた。

地区の課題

・イベント参加者の固定化

地域の茶の間や講座等で、いつも同じ人が来ているのが課題。コロナの影響で人数制限を行ったことも影響している可能性がある。

・地域とのつながりが薄いアパート等の居住者

高齢者独居の方に思いやり応援隊の広報物を配布し、コミュニケーションをとりづらい世帯へのアプローチを進めている。

(新)子育てに優しい地域づくりについて

新潟地域若者サポートステーション(サポステ)、若者支援センター オールのような機関が東区にあれば、不登校やひきこもりの子の居場所になるのでは。中央区まで交通費をかけて通える子は少ないのではないか。東区からオール(万代市民会館内)まで歩いていった子がいる。

実行計画

①安心して暮らせるまちづくりをしよう

思いやり応援隊の活動を継続しており、利用促進の広報物(シール)の配布を行うなど活動の定着化を図っている。

依頼で多いのは草取り、ごみ出し。冬は除雪依頼も増えてくる見込み。

活動状況をまとめたパンフレットを配布し、ボランティアの募集も実施している。

亀田郷芦沼会の「おたがいさまのまちづくり実行委員会」は、地域を巻き込んで認知症SOS検索模擬訓練を開催し、地域貢献の機会が増えている。

②地域の茶の間・居場所を活用しよう

コロナ禍で人数制限をしたことにより、人気のある茶の間はすぐに埋まってしまっていた。

③地域で情報を共有しよう

民生委員・児童委員と自治会長との交流会は、コロナのため中止している。

(新)高齢者の健康づくり活動

フレイル予防教室を実施している。今後も継続していきたい。

令和4年度地域福祉座談会まとめ

地区名 大形

地区の目標・目指す姿

誰もが安心して住むことができ、多世代交流の活発なまちに！

開催日 令和5年1月10日

地区別計画の進捗や意見・修正等

地区の良いところ

地域の居場所

新規茶の間の立ち上げや、活動を再開したいという動きが2自治会で出てきた。令和3年から子ども食堂も活動が始まっている。

学校とのつながり

県立大学との交流は減ってしまったが、小中学校はコミュニティスクールの関連で連携強化の動きが広がってきている。

じゃがいもの会

活動を継続している。子ども食堂の手伝いも行っている。

地区の課題

・地域のつながりづくり

町内のつながりが希薄になり、亡くなった方の情報を後で知ることが増えてきた。
外で遊ぶ子どもが少ない。

実行計画

①地域のつながり、顔の見える関係づくりを推進する

コロナの影響が大きく、活動が先細りになってしまっている。

大形まちづくりセンターの活動団体は、高齢化が進んできているが参加者数は減っておらず活動を継続。作品展示会は開催できたが、今後は学校や茶の間など地域活動につなげていければよいと考えている。

地区全体のイベントはコロナ禍の制限で開催ができていないものがあり、防災訓練も開催を見合わせている。令和5年1月14日に餅つき大会を予定している。
コミ協と民生委員・児童委員との情報交換会は継続できている。

②安心安全なまちづくりを進める

ボランティアが小学校前であいさつの声掛け運動をしている。

③支え合いのしくみづくりを推進する

自治会長への説明会はなかなか進んでいない。支え合いのしくみづくりの必要性をまだ感じていないことや、会長が交代していることが影響している可能性。
困ったときにどこに相談してよいか分からない人もいる。支え合いのしくみづくりとして今後作成するパンフレットや、自治会だよりで周知していきたい。

地区名 江南

地区の目標・目指す姿

安全で住みやすく、安心な暮らしのできるまちづくりを！

開催日 令和4年11月17日

地区別計画の進捗や意見・修正等

地区の良いところ

・各種交流事業

コミ協の世代交流事業「紙ヒコーキ選手権」「人形劇」はコロナで開催できていない。自治会・町内会の事業も影響を受け、中止や形を変えて開催になっている。

地区の課題

・担い手の発掘

自治会やコミ協ともに担い手不足は深刻。1年スパンで会長が変わる自治会もあるが、それでは機能しないのではと思うが、そうでもしないと引き受け手がいないのが実情である。担い手の高齢化により自治会の側溝掃除を業者に委託したところもあると聞いている。自治会に加入しない世帯もある。

豊かさ引き換えに「人を思いやる気持ち」が減ってしまったのかもしれない。

(新)コミ協の認知度が低い

個人情報への壁があり、子どもの情報などがなかなか得られない。

実行計画

①後継者と若い人を育成しよう

江南小PTAの人は熱心にやってくれるが、あくまでも自分の子のためで、あまり地域に協力してくれる感じではない。

②地域住民の関係づくりを強めよう

コロナ禍の影響で世代間をつなぐイベント事業がストップしてしまっている。

③支援のためのネットワークづくりをしよう。

令和3年7月から「こうなんお助け隊」が立ち上がった。登録ボランティアは20名、利用者は10名ほど。年間利用件数は130～140件。根付くまでの取り組みが大変だろうが、やっていかねばと思っている。「とても助かっている」との声が寄せられている。

買い物支援の利用が少ない。まだ自分で買い物に行ける人や家族の支援が得られている人が多いのではないかと。または、人に頼ることに抵抗のある独立心の強い人が多い地区なのかもしれない。

(新)高齢者向けの取り組み

令和3年から「はじめの一歩」を開始した。健康講座やエクササイズを行う。参加者自身が自分で出来る目標を決めて頑張る形にしている。参加者は100名くらい。長続きする取り組みにしたい。

(新)ボランティアアンケート

江南支会とコミ協でボランティア活動者(こどもパトロール活動者や民生委員・児童委員など)を対象にアンケートを実施した。結果をまとめ、分析するのは大変だが、地域課題の把握に活用していきたい。

地区名 中野山

地区の目標・目指す姿

安心して暮らしつづけたい美しいまち

開催日 令和4年1月18日

地区別計画の進捗や意見・修正等

地区の良いところ

各項目、コロナ禍においても概ね継続実施できている。

・交流事業

コミ協主催のいきいき広場は2年連続中止。健康ウォークも同様だが代わりにスポーツ体験会・輪投げ大会を実施している。星空観望会は休止。

公園で毎日ラジオ体操の集いができている。

地区の課題

・地域の関係づくりの再構築

小地域の付き合いが無くなってきている。

(新)自治会の無い地域

集合住宅2か所約100世帯で自治会が無い。比較的若い世代が住んでおり、今のところ目立った課題は出ていない。

実行計画

①顔の見える関係づくりを推進する

コロナ禍のため自治会の交流事業が軒並み中止となっており、ご近所同士の関係づくりに課題がある。

子どもと大人が交流できる協働事業としてフリースペースなかのやまを実施。

②非常時にも対応できる仕組みづくりを推進する

障がい者、要介護の方の情報が無く、非常時の体制構築に困っている。

③気軽に誰もが集える居場所づくりを推進する

地域の茶の間は活発に活動している。自治会ごとに集まる場所があると良いが集会所のない所もある。空き家活用は費用がネックとなり進んでいない。

フレイル予防事業が好評で定員以上の参加希望がある。次年度以降も継続して実施する予定。

④美しい環境づくりを推進する

担い手が高齢化している(環境づくり以外の取組も同様だが)。

(新)困った時のガイドブック発行

スマホ等で自力で情報収集が難しい方向けにガイドブックの発行を予定している。

地区名 南中野山

地区の目標・目指す姿

ちょっとした困りごとは地域住民同士で解決できるまちに！

開催日 令和4年12月10日

地区別計画の進捗や意見・修正等

地区の良いところ

・地域の茶の間

4か所 ⇒ 5か所に増えた。

・ごみカレンダーの活用

行事予定を掲載し参加促進に使っている地域はあるが一部のみ。

地区の課題

・居場所づくり、介護予防・健康寿命延伸、災害時対応

いずれも継続課題。

(新)担い手の育成・発掘

自治会役員の後継者不足、長期の再任期、班長の高齢化が課題。自治協のヒント集や回覧板などを参考にして、今後の自治会運営を考えたい。

(新)認知症独居高齢者の見守り

徘徊する方もあり、独居の生活に限界がきているのではと感じる。地域の見守りはどこまでできるのか。

実行計画

①「ヘルプ南中野山」の活動を拡充する

4月からの累計依頼件数は129件。ごみステーションの掃除代行、重いものの移動、庭木の伐採、すだちの収穫などの依頼対応あり。

ヘルプ南中野山の助け合いのかかわりを通して、気持ちが上がってきたという話あり。

活動周知のため「活動の見える化」が必要ではないか。2層情報交換会で得られた他地区の事例などを参考にしていきたい。

②みんなが集まり楽しめる居場所づくりをする

茶の間が1か所増えた。茶の間以外にも認知症カフェや子ども食堂などを増やしていきたい。会場として石山南まちづくりセンターが良いが空きが少ない。

コロナ禍のため、介護施設が会場の茶の間は以前のような開催ができなくなっている。

③民生委員・児童委員と自治会の情報共有と連携強化

コミ協と民生委員の情報交換会を3年ぶりに開催した。コロナ禍が落ち着いたら懇親会も兼ねて行い、より円滑に情報交換ができるようにしたい。

④防災体制を充実させる

防災訓練を実施したが、個人情報や自治会名を出したくない人がいた。避難所運営の安全管理のため、そのような人は断ることのルール共有ができた。

(新)フレイル事業

令和3年から実施し、今年も1度開催。約60名の参加があった。

令和4年度地域福祉座談会まとめ

地区名 東中野山

地区の目標・目指す姿

誰もが安心して住み続けられるまちを目指して！

開催日 令和5年1月20日

地区別計画の進捗や意見・修正等

地区の良いところ

・学校と地域

登下校の見守りや安全マップづくりはコロナ禍でも継続している。学校との防災訓練は3年連続で中止(コミ協単独開催は継続)。

・地域の茶の間

茶の間件数は7⇒6に減少したが、それぞれの茶の間活動は活発。

地区の課題

・見守り体制について

集合住宅住民の顔が見えず、見守り体制構築の課題は継続。世帯票の聞き取り内容を性別・世代程度に絞ることで情報を得て、防災対策などに役立てている。

・支え合い活動

ゴミ捨てに関する相談が支え合いのしくみづくり推進員に入ってくるようになってきた。自助ではきつくなっていて、支え合いを必要とする人に支援が届くと良い。高齢者の足の問題は継続。買い物にタクシーを使う人もいる。

・地域の茶の間

参加者の顔ぶれがいつも同じ。とくに男性参加者が少ない。

・担い手不足

地域活動のキーパーソン(自治会役員、茶の間運営者、民生委員等)の後継者不足が継続課題。

実行計画

①誰もが安心して暮らしていただけるためのネットワークを充実させる。

地域の茶の間交流会を開催しており、有意義な活動になっている。
地域の支え合い活動がスタートし、草刈りや除雪などの依頼がきている。

②自治会と民生委員・児童委員との連携を強化する

自治会長と民生委員・児童委員との定期的な情報交換会を継続している。令和5年2月に開催予定の情報交換会のテーマは「見守りと地域の関わり方」。

③担い手の育成

定年延長など働き続ける人が増え、地域参加できる余裕のある人が少ない。